

地域の実情に応じて運用できる「民泊」の法制化を求める意見書

少子高齢化と核家族化により増加の一途をたどる空き家・空き室への対策や、外国人旅行者等の急増による宿泊施設の不足への対応等において、政府が検討を進めている既存住宅等を宿泊施設として活用できるようにする「民泊」制度の法制化は大変有意義な取組であると考えます。

実際に、我が国の空き家や空き室は2013年の時点で約820万戸、うち耐震性等があり駅から1キロメートル以内の空き家は約48万戸、賃貸用空き室は約137万戸もあり、これらの利活用は地域の新たな活力を生み出す大きな力となり得る。

また、2012年に836万人だった訪日外国人旅行者は、2016年にはその3倍の2400万人を突破し、さらに政府が2020年の東京オリンピック・パラリンピックの年には4000万人の目標を掲げる中で、宿泊施設の不足も懸念されている。

まさに、これらの諸課題に対応する「民泊」の推進は、遊休資産を有効に活用することによる地域経済の活性化や、管理が行き届いていない空き家等の適正な管理による住環境の改善への寄与が期待されることである。

政府においては、「民泊」制度の法制化に当たり、宿泊施設として必要な安全性等を確保するとともに、地域住民と旅行者の安全と安心の確立、並びに地域の実情に合わせて将来にわたり豊かで住み良い地域の実現に寄与するように、下記の事項について特段の配慮を求める。

記

- 1 地域住民と旅行者が安全に安心して「民泊制度」を運用することが可能となるよう、国が責任を持って必要な基準を定めること。
- 2 「民泊」の運営に関する実態の監視や様々なトラブルに迅速かつ適切に対処する体制を国の責任において整備すること。
- 3 地域の実情に応じて適切な「民泊」の運営がなされるように、自治体が条例の制定等により地域独自のルール等の構築が可能となるようにすること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成29年3月22日

宮 崎 県 議 会

衆議院議長	大島 理森 殿
参議院議長	伊達 忠一 殿
内閣総理大臣	安倍 晋三 殿
総務大臣	高市 早苗 殿
国土交通大臣	石井 啓一 殿
内閣官房長官	菅 義偉 殿
内閣府特命担当大臣 (規制改革)	山本 幸三 殿